

◆まずはじめに大事なお願い ➡

- ・地域の危険箇所を確認してください
- ・避難場所や避難経路を確認してください
- ・大島町からの情報や気象情報をよく聞いてください

気象庁は、大雨・強風などにより災害の発生するおそれがある場合、警報や注意報などの防災気象情報を発表しています。町などの防災機関や住民の皆さんにとっていただきたい対応・行動は概ね以下のとおりですが・・・

危険箇所近くや避難に時間のかかる方は、周囲の状況に応じた早めの対応・行動が重要です。



※この他、大雨に関する情報として、数年に1度の猛烈な雨(大島町: 1時間雨量100ミリ)を観測(地上の雨量計による観測)したり、解析(気象レーダーと地上の雨量計を組み合わせた分析)したときに「記録的短時間大雨情報」を発表します。

◆大島町の大雨警報・注意報の発表基準

大雨警報: 1時間雨量 70ミリ 大雨注意報: 1時間雨量 40ミリ
(別途、地中に浸み込んだ雨の量を指数化した「土壌雨量指数」も基準に用いています)

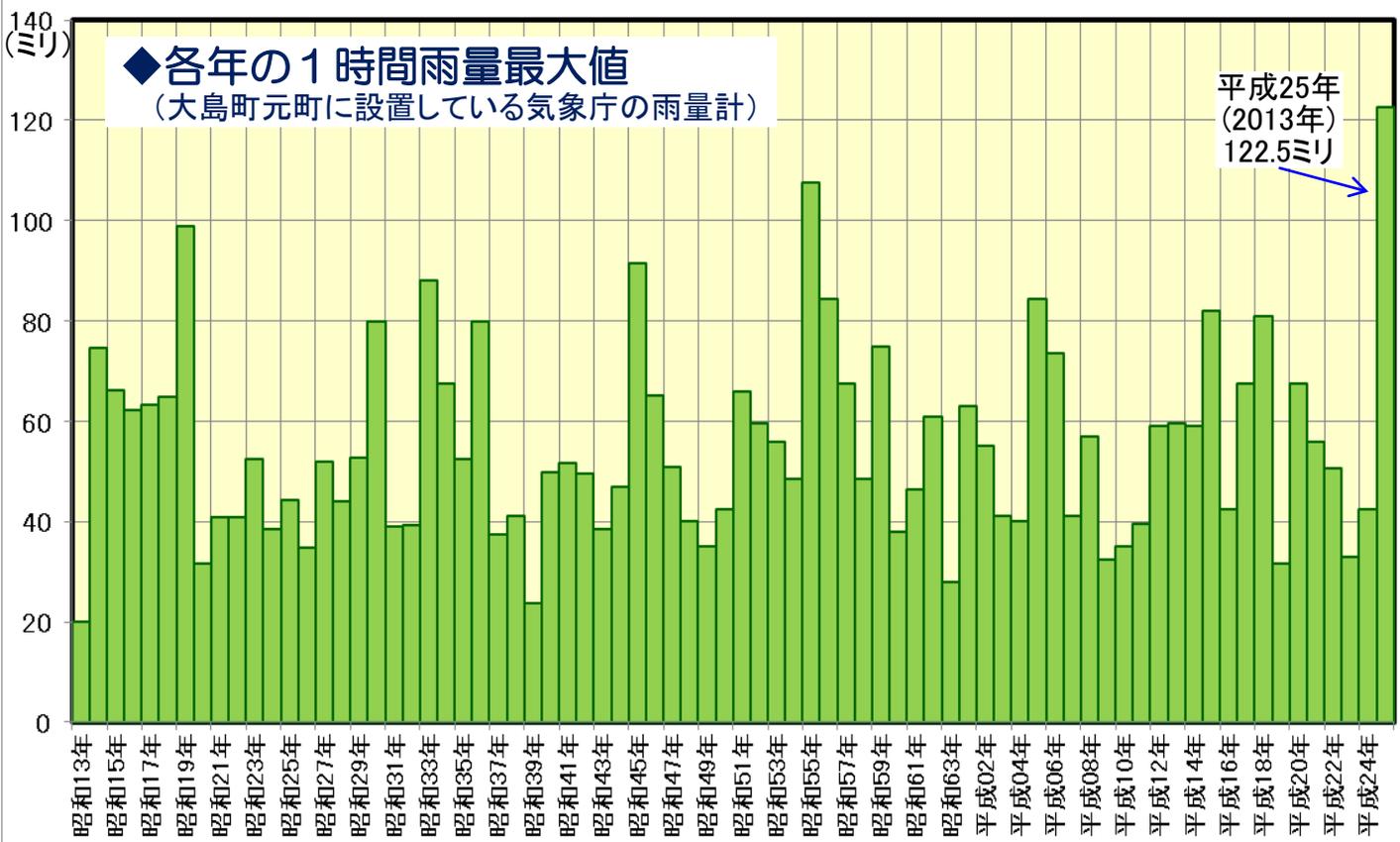
◆観測史上1～10位の値 (大島町元町に設置している気象庁の雨量計)

要素名/順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	統計期間
日降水量 (ミリ)	525.5 平成25年10月16日	473.0 昭和57年9月12日	419.2 昭和33年9月26日	403.0 昭和56年10月22日	362.9 昭和16年7月22日	342.5 昭和47年7月15日	340.0 平成8年9月22日	330.0 平成2年11月30日	301.0 昭和61年8月4日	298.5 平成25年10月15日	昭和13年11月～平成25年12月
日最大10分間降水量 (ミリ)	29.0 平成15年7月24日	27.0 昭和54年10月18日	26.0 平成17年11月6日	26.0 昭和16年7月16日	25.5 平成25年10月16日	25.5 平成18年4月12日	25.5 昭和46年8月31日	25.0 平成22年9月8日	25.0 昭和52年7月17日	23.3 昭和15年10月15日	昭和13年11月～平成25年12月
日最大1時間降水量 (ミリ)	122.5 平成25年10月16日	107.5 昭和56年10月14日	98.9 昭和19年10月7日	91.5 昭和46年9月29日	88.0 昭和33年9月26日	84.5 平成5年7月5日	84.5 昭和56年10月22日	82.0 平成15年7月24日	81.0 平成18年4月12日	80.0 昭和36年10月9日	昭和13年11月～平成25年12月
月最大24時間降水量 (ミリ)	824.0 平成25年10月15日	712.0 昭和57年9月12日	412.0 平成12年7月7日	403.0 昭和56年10月22日	368.0 昭和47年7月15日	356.0 平成24年5月2日	350.5 平成2年11月30日	346.0 平成8年9月22日	315.5 平成7年9月16日	308.5 平成14年8月19日	昭和46年1月～平成25年12月
月降水量の多い方から (ミリ)	1255.0 平成25年10月	1143.0 昭和16年7月	1138.5 昭和57年9月	935.5 平成3年10月	921.1 昭和29年6月	770.5 昭和60年6月	746.5 平成16年10月	740.3 昭和38年6月	728.0 昭和14年10月	716.5 平成元年6月	昭和13年11月～平成25年12月

黄色背景色は、平成25年台風第26号に伴う雨が関係している記録

◆雨の強さと降り方

1時間雨量 (mm)	10以上～ 20未満	20以上～ 30未満	30以上～ 50未満	50以上～ 80未満	80以上
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)	息苦しくなるような圧迫感がある恐怖を感じる
人への影響	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	傘をさしていてもぬれる		傘は全く役に立たなくなる	
屋内(木造住宅を想定)	雨の音で話し声が良く聞き取れない	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく			
屋外の様子	地面一面に水たまりができる		道路が川のようになる	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	
車に乗っていて		ワイパーを速くしても見づらい	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる(ハイドロプランニング現象)	車の運転は危険	
災害発生状況	この程度の雨でも長く続く時は注意が必要	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模の崖崩れが始まる	山崩れ・崖崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要 都市では下水管から雨水があふれる	都市部では地下室や地下街に雨水が流れ込む場合がある マンホールから水が噴出する 土石流が起こりやすい 多くの災害が発生する	雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要

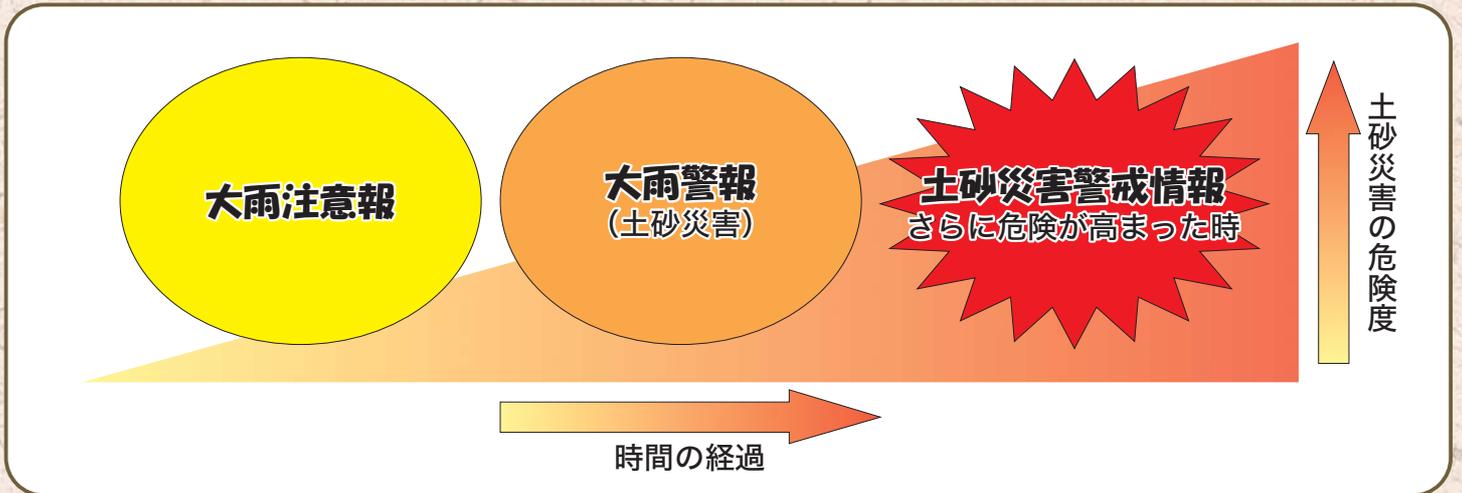


◆最後に大事なお願い ➡ 隣・近所で声を掛け合って
早め早めの避難行動をお願いします。

土砂災害警戒情報を発表しています

～大雨による土砂災害から命を守る～

東京都と気象庁は、土砂災害に対する大雨警報が発表された後、がけ崩れや土石流の発生する危険性がさらに高まった時に、土砂災害警戒情報を発表します。



※上の図は情報発表のタイミングの一例です。必ずこのような順序で発表されるとは限りません。

土砂災害に備えて

情報に注意

大雨警報が発表されたら、土砂災害警戒情報の発表にも注意してください。テレビなどの報道機関を通じてお知らせします。



報道機関を通しての伝達
(テレビテロップ表示イメージ)

また、防災行政無線などを通じて、区市町村からもお知らせします。



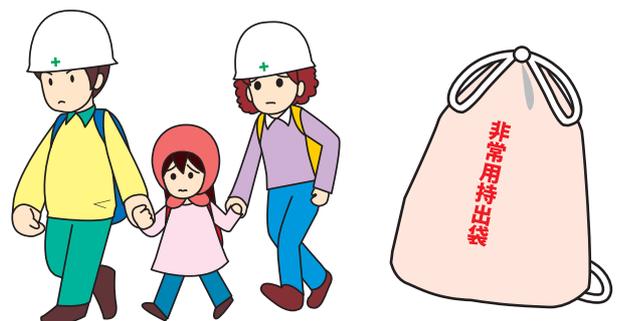
早めの避難

区市町村から避難勧告や避難指示等があった場合は直ちに行動してください。

区市町村からの指示等がなくても、周囲のがけ等の状況に注意し、危険を感じたら早めに、安全な場所に避難してください。

避難の際には、河川や水路の増水にも十分注意し、安全に避難してください。

日頃から土砂災害危険箇所や、避難場所、避難経路を確認しておきましょう。



土砂災害の前兆現象

こんな前兆現象が見られたら

土砂災害発生のおそれがあります



湧水の濁り



小石がぼろぼろ落下



亀裂の発生



がけ崩れ



流木が発生
溪流内の転石の音



山鳴り・地鳴り



水位の急激な低下



土石流

☆前兆現象に気づいた場合は、直ちに周りの人と安全な場所に避難するとともに、区市町村役場や最寄の建設事務所等にご連絡ください。

☆このような前兆現象が無い場合もありますので、普段と違う異変を感じたら、できるだけ早めの避難を心がけましょう。

情報利用上の注意

土砂災害警戒情報は、降雨の状況から予測可能な土砂災害（土石流や集中的に発生する急傾斜地崩壊）を対象としています。土砂災害は、それぞれの斜面における植生・地質・風化の程度、地下水の状況等に大きく左右されるため、個別の災害発生箇所・時間・規模等を詳細に特定できるものではありません。

詳しくは、下記ホームページをご覧ください。

<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/bosai/doshakeikai.html>

【お問い合わせ先】

土砂災害警戒情報に関するお問い合わせは下記までお願いします。

東京都建設局河川部防災課

TEL：03-5320-5431

気象庁予報部予報課気象防災推進室

TEL：03-3212-8341（内線3189）